

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲 2, 5	有
	請求の範囲 1, 3, 4, 6	無
進歩性(IS)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-6	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-6	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: 日本国実用新案登録出願1-144164号(日本国実用新案登録出願公開3-85751号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム(日産ディーゼル工業株式会社)
1991.08.29, 第1図

文献2: JP 10-61753 A(日野自動車工業株式会社)
1998.03.06, 第2図

文献3: JP 6-58392 A(日野自動車工業株式会社)
1994.03.01, 第1図

請求の範囲1, 3, 4, 6に係る発明は、文献1の第1図に記載されているので(「油路15」、「油ポンプ16」、「ストレーナ18」参照。)、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲2に係る発明は、文献1、2により進歩性を有しない。文献2には、アクスル内潤滑装置において、潤滑油の吐出口を複数設ける技術が記載されている。文献1に記載のアクスル内潤滑装置に文献2に記載の技術を適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲5に係る発明は、文献1、3により進歩性を有しない。文献3には、アクスル内潤滑装置における潤滑ポンプとして電動式潤滑ポンプを用いる技術が記載されている。文献1に記載のアクスル内潤滑装置に文献3に記載の技術を適用することは、当業者にとって容易である。